

平成 24 年度
高次脳機能障害教室

第 1 回
高次脳機能障害とは？

福井県高次脳機能障害支援センター

平成 24 年 4 月 12 日

高次脳機能障害教室 今後の予定

高次脳機能障害でお悩みの方、そのご家族のみなさんの為の勉強会と交流会を開催致します。お気軽にご参加ください。

- 日時：毎月第2木曜日 13：30～15:00（交流会含む）
- 場所：福井総合クリニック 6階会議室

	開催日	内容(予定)
	4月12日	高次脳機能障害とは？
	5月10日	高次脳機能障害の基礎知識～用語の解説～
	6月14日	記憶障害とその対処法
	7月12日	注意障害とその対処法
平成 24 年	8月9日	遂行機能障害とその対処法
	9月13日	社会的行動障害とその対処法
	10月18日 ※第3木曜	高次脳機能障害の集団リハビリテーション
	11月8日	高次脳機能障害～入院生活を支える編
	12月13日	高次脳機能障害者の当事者・家族の会～「福笑井」の活動について
平成 25 年	1月10日	高次脳機能障害～障害者手帳・障害年金の申請
	2月14日	高次脳機能障害者への就労支援について
	3月14日	高次脳機能障害～自動車運転について

※10月のみ第3木曜日です。
ご注意ください。

【問合せ・申込み】 福井県高次脳機能障害支援センター
〒910-0067 福井県福井市新田塚 1-42-1 福井総合クリニック内
電話 0776-21-1300（内線 5934） FAX 0776-25-8264
E-Mail fukui-koujinou@kve.biglobe.ne.jp

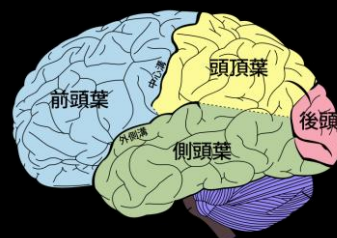
【お願い】教室・交流会での個別相談は行っておりません。相談希望の方はご予約をお願い致します。

高次脳機能障害とは

福井総合クリニック 理学療法室
吹寄博司

脳の働き

- 生命の維持
 - 呼吸・血圧・体温
- 意識の維持
 - 目が開いていて周囲に注意を払う
- 感覚と運動
 - 触る・見る・聞く・味わう・嗅ぐ(五感)
 - 物をつかむ・歩く...

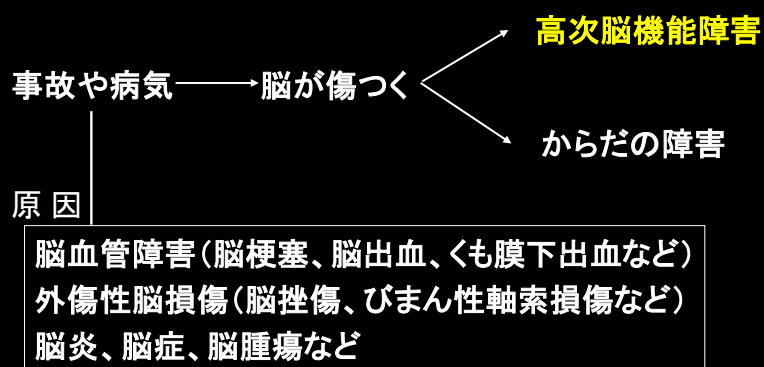


(図: ウィキペディアより)

高次脳機能

- 認知と判断
 - 五感で得た情報を認知する
 - 認知した情報をまとめて、その後の行動を判断する
 - 言葉を理解したり、字を書いたりして人と交流する

高次脳機能障害とは



* からだの障害と異なり外見からは分かりにくく「見えない障害」といわれています。

高次脳機能障害への取り組み

「注意障害」「記憶障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」により、日常生活や社会生活にうまく適応できない人がたくさんいる



平成13年「高次脳機能障害支援モデル事業」
目的: 診断基準や支援サービス体制をつくる



平成18年「高次脳機能障害支援普及事業」
目的: 地域で適切な治療や支援サービスを受けられる体制づくり
内容: ①相談支援、②行政や家族会などとの地域ネットワークの充実、③研修事業、④広報・啓発活動

高次脳機能障害者の数

モデル事業

全国に約27万人
(人口約1億2700万人)

換算

福井県約1700人
(人口約81万人)



2007年調査
753人

高次脳機能障害の定義

失語

失行

失認

記憶障害

注意障害

遂行機能障害

社会的行動障害

学術用語

行政用語

高次脳機能障害の診断基準

- ①記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害のため、日常生活や社会生活に困難がある
 - ②事故による受傷や病気による発症の事実が確認できる
 - ③除外項目（失語症、認知症など）に該当しない
- ・上記3項目をすべて満たしている

文献3)より抜粋

診断基準から外れた病気

- 進行性の認知症
 - アルツハイマー病
- 先天性疾患や周産期の脳損傷
 - 脳性麻痺
- 発達障害
 - 自閉症
- 失語症

身体障害者手帳

病状の経過が、脳卒中、脳外傷、低酸素脳症などの後天性疾患とは異なる

高次脳機能障害の主な症状

- 注意障害
- 記憶障害
- 遂行機能障害
- 社会的行動障害



- その他
病識の低下、自発性の低下、固執傾向など

注意障害

- 注意散漫。
- あらゆる妨害によって、気が散りやすい。
- 妨害刺激があると、ミスが多くなる。
- 物事に集中できない。
- 話についていけない。
- 課題を終わらせるまでにすごく時間がかかる。
- 言われていることに興味を示さない。あるいは関心がないように思われる。
- ボーッとしている。

記憶障害

- さっき言ったこと、言われたことを忘れる。
- 情報が蓄えられるまで憶えていられない。
- 人の名前、作業の手順が憶えられない。
- たった今起きていることが思い出せない。例えば作業している最中なのに、要点が思い出せない。
- 作業中に妨害が入ると、何をしていたか忘れてしまう。
- 同じ間違いを繰り返す。



遂行機能障害

- 要点を絞り込むのが困難。
- より良い解決策を選択できない。
- 一つ以上の考えが思いつかない。
- 多方面からの問題解決ができず、一つが解決できないとお手上げになってしまう。
- 自分で目標を設定するのが困難。
- 何を最初にしてよいか優先順位がつけられない。
- すべての計画の段階づげができない。
- 必要に応じて間違いを修正し、計画を変更することができない。



社会的行動障害



- 興奮する、大声を出す、暴力を振るう。
- 子供っぽくなる。
- 無制限に食べる。無制限にお金を使う。
- 思い通りにならないと、決まって大声を出す。
- 他人につきまとして迷惑な行為をする。
- 不潔行為やだらしない行為をする。
- すぐ怒ったり笑ったりする。
- 自分が中心でないと満足しない。
- 相手を思いやれず、よい人間関係が作れない。
- 1つの事にこだわって他の事ができない。

その他の症状

病識の低下

- 自分は何も問題がない、以前と変わっていないと感じている。
- 自分自身の障害の存在を否定する。
- 障害を指摘されると腹を立てる。
- 自分は何でもできていると思っている。

自発性の低下

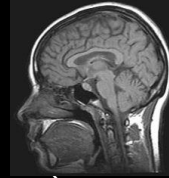
- 言われないと何もしようしない

固執傾向

- 過剰にこだわる

診断の方法

- 画像検査
CT、MRI、脳血流シンチなど
- 神経心理学的検査
注意機能(かな拾いテスト、TMT、CAT)
記憶機能(WMS-R、RBMT)
遂行機能(BADS)
知的機能(HDS-R、MMSE、WAIS-III)
- 問診・行動観察



回復を促す要因

- 病気や事故以前の要因
 - 若い人ほど回復がよい
 - 前向き、努力家ほど回復がよい
- 病気や事故そのものの要因
 - 損傷範囲が広いと回復に時間がかかる
 - 損傷部位によって時間がかかる場合がある
- 病気や事故以降の要因
 - 治療
 - 各症状への対処
 - 認知リハビリテーション

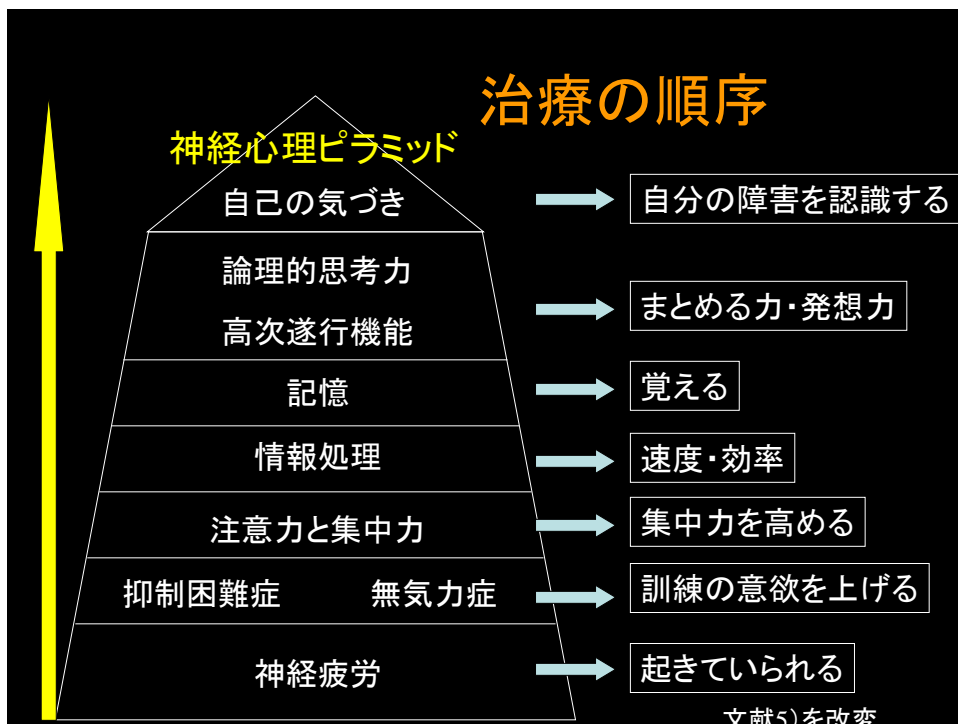


治療の方法

- 意識づけと感情の安定
- 代償的治療
残された機能を活用し、障害された機能を補う
- 補填的治療
補助的な道具を用いて障害から生じる不都合を軽減させる
- 行動的治療
適切な行動を強化し、不適切な行動を抑制する
- 環境調整的治療
生活環境を調整する
- 直接的治療
障害された認知機能そのものの回復を促す



治療の順序



社会復帰の障害と対策

- 患者要因

- 病識の低下
- 社会的行動障害



認知リハビリテーション
集団リハビリテーション

- 環境要因

- 学校、職場の理解不足
- 家人の理解不足
- 医療職の理解不足
- 社会資源の不足



学校、職場および家人
への説明や指導

医療職を含めた社会全
体への啓蒙

社会資源の有効活用

社会復帰を助ける ～当事者・家族の会～

- 本人・家族のために果たす役割
 - 共感、安心の場
 - 情報交換、学習の場
 - 社会経験、社会参加の場
 - 社会啓蒙活動
- 福井県脳外傷友の会「福笑井」
(福井県高次脳機能障害者と家族の会)

社会復帰を助ける ～福祉制度などの利用～

- 行政的な手続きをする際には精神障害の一つととらえられている
- 障害者手帳
 - 高次脳機能障害は「その他精神疾患(器質性精神障害)」として精神障害者福祉手帳の申請ができる
- 障害者自立支援法による福祉サービス
 - 障害者手帳を取得しているか「高次脳機能障害の診断書」がある場合に申請できる
- 公的年金制度
 - 申請の条件を満たしている場合、高次脳機能障害は「精神の障害」として申請できる

社会復帰を助ける ～仕事について～

- 本人の働きたいという意志
- 復職、再就職に向けての支援
 - 認知リハビリテーション
 - 職業準備支援(障害者職業センター)
 - 求職活動の支援
- 仕事を続けるための支援
 - 家族によるサポート
 - 専門家によるサポート
 - 職場によるサポート

山田規畝子氏



私自身のことを言えば、思考機能、運動機能、注意機能などなどといった、生活していくうえで本当に困る場面が多々あり、病前と変わってないことのほうが少ないぐらいです。それなのに、性格や好みや、長年やってきたことの記憶という「私」らしさという自意識は驚くほど変わっていません。

傷ついた脳の中にも心はあり、言葉のない人にも心がある。

文献4)より抜粋

参考文献

- 1) 渡邊修: 高次脳機能障害と家族のケア. 講談社, 2008
- 2) 福井県高次脳機能障害支援センター: 高次脳機能障害～理解から支援づくり～(第4版), 2012
- 3) 中島八十一(監修): 福祉ビデオシリーズ「高次脳機能障害のリハビリテーション」. 2011, 社会福祉法人NHK厚生文化事業団
- 4) 山田規畝子: 高次脳機能障害者の世界～私の思うリハビリや暮らしのこと. 2009, 協同医書出版社
- 5) 橋本圭司: 高次脳機能障害がわかる本. 2007, 法研